

福臨技企画 1

「“New Normal” 新たな時代を迎えて～新型コロナウイルス感染下における技師会活動の今後～」

New Normal ～新たな当たり前と共生することを考える～

◎田中 信次¹⁾

日本赤十字社 熊本健康管理センター¹⁾

【はじめに】

2020年から拡大した新型コロナウイルス感染症は私たちの生活様式を一変させた。家庭や職場ばかりではなく技師会活動にも大きな変化をもたらした。今回、新型コロナウイルス感染症の感染者が増加し、行事を中止、延期せざるを得ない時期を振り返るとともに、それでも技師会としての歩みを止めることなく状況に対応してきた事例から今後ウィズコロナといわれる時代に技師会がどう変わって行けるのかを考察した。

【経緯】

2020年2月より勉強会、講習会、理事会、祝賀会を中止または延期。2020年8月より研修会の再開を目指し、手始めに ZOOM での WEB セミナーのテストとして「新型コロナウイルス感染症検査について～PCR 検査を中心に～」と題し講演。その後自治体、熊本県医師会からの要請で COVID-19 関連検査講習会（LAMP 法研修と検体採取研修）を 9/19、9/26、10/10 の計 4 回開催し 87 名が受講。また自治体からの要請で 2021 年 7 月にワクチン接種講習会（熊本県歯科医師会主催）を 2 回にわたり 60 名が受講した。熊本県医学検査学会は、2020 年、2021 年は WEB 配信、2022 年はハイブリッド開催を行った。生涯教育活動（WEB 配信による研究部門研修会含む）は 2020 年度 15 件、2021 年度 37 件であった。理事会、常務理事会は ZOOM 会議にて行った。

【考察】

新型コロナウイルス感染症により技師会にとって活動を制限される期間でもあったが学会や研修会を WEB 配信で行うという新たな手段を手に入れた期間でもあった。家事をしながら講習を受けるというスタイルも可能であり、今まで参加できなかった会員への刺激にはなった。しかし ZOOM 研修、会議が増えることでスケジュールを管理する部署がタイトになり会務の改善が必要であるなど弊害も出ている。また学会、研修会での発表者の熱い思いを ZOOM 越しに感じるのか疑問である。今後の技師会は WEB の利便性と仲間との語らいを重視する方法をさらに考えていくことも必要ではないだろうか。学会では各県の発表者と今後の WEB 利用やコミュニケーションの取り方などを議論したい。